令和６年度庄内町地域クラブ指導者等研修会アンケート質問への回答

1　○質問①　　意図的な用具等の破損、チームメイト同士での暴言(当事者同士はふざけあい)による、チームへの悪影響、等における、注意・指摘方法の参考例があればお聞きしたい。

◇回答①　　子どもたちは多くの成功と小さな失敗を毎日のように経験しています。大人からするとマイナスに見えるようなトラブルを経験することで、悲しい気持ちやくやしい気持ちを味わいながらもその子なりに成長し、社会性や協調性、課題解決能力を育むことができます。失敗したことを学びの機会とし、その後の再発防止や活動の再開、そして本人の成長に繋げていってください。

今回お尋ねの２つの件につきまして、当事者の背景や発生状況などによりその対応は変わることと思いますが、次に２つの指導例を紹介しますので、今後の指導の際の参考にしてみてください。

＜参考例＞

（１）器物損壊指導プログラム(横浜市教育委員会)　※保護者向け通知一部抜粋

学校では、児童生徒が学校の窓ガラスやドアなどの公共物等を故意(わざと)、または故意に近い状況で破損した場合に、自らの行為に対する責任を自覚し、豊かな社会性を身に付けられるよう、以下のように器物損壊指導プログラムを実施いたします。

□行為者の特定や行為の理由など、事実を正確に把握する。
□行為者の心情や人間関係、教育指導上の個別課題や背景を十分把握して指導を行う。
□行為者に自らが行った行為の意味を見つめさせ、その心情を整理して、反省の態度(気持ち)を醸成する。
□行為により影響を受ける人々やその生活、安全な校内生活の維持に努めている人々の姿、教育のために整えられた公共財産であること等に目を向けさせ、社会性の育成に向けて指導する
□自らの行為の責任について自覚を促し、できうる限り、影響を受けた人々や生活が旧に復するよう努力することが大切であることを指導する。
□その理解に立って、関係者への謝罪、破損場所の清掃や壊れた器物の補修、他のボランティア活動等によって自らの責任を示し、反省の心情を行動につなぐことができるように指導する。
□保護者と連携を図り、児童生徒が社会的な意味を実感できるよう協働して指導場面を工夫する。
□補修活動や謝罪など、自己責任を自覚した行動を評価し、新たな気持ちで快活な学校生活が送れるよう励まして指導を終了する。

※行為者が特定できない場合や行為が悪質で繰り返される場合など、警察に被害届を提出することも視野に入れて対応する。

（２）子ども同士のトラブル時の指導の手順例　　＜教育カウンセラー＞

①当事者や双方の話をしっかり聴く(事実確認、意識のズレ、思い違い等)。
＊子どもの話を否定したりさえぎったりしない。

⬇

②指導側の判断を言い伝えるのではなく、お互いの気持ち(感情)を表現できるようにコーディネートする。

⬇

③客観的な視点で状況を分析する。
＊子どもはトラブルの渦中にいるため、状況をうまく把握できていないこともある。
＊行為による相手や周囲の仲間の気持ちまで考えを進められるよう促す。
＊感情的にならず、冷静に状況を判断する。

⬇

④子どもと一緒に適切な対応策を考える。
＊一方的に叱らない。
＊大人の理屈を押し付けない。

⬇

⑤しっかり謝る場面を設ける。
＊何となく話の流れで済ませるのではなく、理由がはっきりし、子ども自身が問題の所在に気が付くことができたら、互いに納得のいく謝罪の仕方を促し実行する。
＊けんか両成敗はしないように気を付ける。

⬇

⑥今回の件で分かったこと・気が付いたことを確認し、今後の望ましい言動を確認させる。

２　○質問②　　指導者側だけが気をつけることなのか？プレーヤーも保護者側にも気をつける点があるのではないかと思いました。

◇回答②　　研修会の「プレーヤーズセンタード」の部分でも触れましたが、中心となるプレーヤーには自己の成長に向けて自己変容していくことが求められます。そして、サポートしていく指導者や保護者などのアントラージュにおいても、プレーヤーの成長や豊かな人生形成、そしてそれぞれの Well-being の向上に向けて改善を図っていくことが求められることになりま

す。そのためにJSPOでも、「NO!スポハラ」活動の中で、保護者も指導者と共に成長していくことを目指して、保護者向けのセミナーやワークショップを展開しています。この様に、指導者だけでなく全ての関係者において改善が求められていくことになります。

その様な関係性の中でも、指導者は指導的立場にいることによって、プレーヤーや保護者に対して上位の権力を持つことになることを自覚しておくことはとても大切なことです。スポハラの根絶に向けて、先ずもって上位の権力を有する指導者自らが改善を図っていくことが求められていることを理解していただきたいと思います。

そして、子どもたちにとって保護者や指導者は最も身近な大人であり、その存在はときに大きな力となり、ときにはせっかくの成長を妨げる障害にもなり得ます。保護者と指導者の関係性は、お互いへの理解が欠けていることから溝が深まってしまうケースが少なくありません。米国のコーチングを学ぶコースでも、親と指導者が分かり合えることで、子どもも指導者を信頼することができ、子どもの心身の安定、競技力の向上につながりやすいとしています。保護者と指導者の皆様方は、先ずはお互いの思いを知ることで相互理解を深め、円滑なコミュニケーションを図りながら、ぜひ良い関係づくりを進めていってください。